

企画・制作 埼玉新聞社クロスメディア局



シニア向けの事業を通して「ラビ」の魅力を伝える。



コロナ禍でも対面授業にこだわった「写真」埼玉純真短期大学

# コロナ禍の出会いがつかない「ふるさと学」

大学で講義して欲しい——。昨年の夏、本紙が開いた対談で交わした約束。当時、新型コロナウイルスの感染が止まらず、世の中には閉塞(へいそく)感が漂っていた。コロナ禍だからこそチャンス。共通した考えが二人の縁を結んだ。

埼玉純真短期大学(羽生市)の藤田利久学長と、ゴトーグループ(熊谷市)の後藤素彦社長。コロナ禍にあって、藤田学長は対面授業を重視し、後藤社長は電動アシスト自転車のシェアサイクル事業などを通じてまちづくりに挑戦していた。

約束の場「ふるさと学」の講義で、後藤社長は「前例がない、だからやる」という強烈なメッセージとともに、問題意識を持って生きる大切さを伝えた。感染状況が比較的落ち着いている今、私たちは何をすべきか。その手かりを探す。

SDGs

みらい  
ものさし

特別対談

モノコトの始まりここから

2022.6 Vol.1



埼玉新聞環境キャンペーン



埼玉新聞の環境キャンペーン「エコ員(ひいき)」は、おかげさまで15日目を迎えました。読者のみなさんとキャンペーン企画・団体へ呼びかけて、県内各地でドングリを集めることからスタートした本キャンペーン。ドングリは県内の農業高校へ託し、生徒をはじめ県民のみなさんへ育てていただきました。読者をはじめ県民のみなさんへ呼びかけて植樹した苗木は、1万5千本以上にもなりました。

さらには2011年からは、県が進める「本多静六の森づくり事業」として、久喜市塚原の中川河川敷で森づくりにも取り組んでいます。私たちの「エコ員」はまだまだ若い森です。地域のみなさんの協力を得て、これからしっかりと育てていきます。さて、森が育つように、私たちの環境意識も成長し変化しています。本キャンペーンは、その変化を「未来を測るものさし」ととらえて、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)を実践する手がかりとなります。様々な活動や考え方をつなげ、新たなモノ・コトが生まれる始点を意図する試みです。埼玉新聞はキャンペーンを通して、読者のみなさん、企業や団体のみなさんへ参加を呼びかけ、エコ員の波をさらに大きな県民運動へ育てたいと考えています。みなさんの参加をお願いします。

お問い合わせ

埼玉新聞 エコ員事務局  
TEL.048-795-9932 FAX.048-662-6610  
〒331-8686 さいたま市北区吉野町2-282-3  
埼玉新聞社クロスメディア局内  
埼玉新聞環境キャンペーン「エコ員」専用ダイヤル  
https://www.saitama-np.co.jp

## 地域の教育力「借りる力」

羽生市にある埼玉純真短期大学にはユニークな授業がある。「地域」の教育資源を教育・保育に活かせるようにする。ためふるさと学は、藤田利久学長が自ら担当する名物授業。学生にとっては、保育資格取得のための選択科目の一つになっている。



「ふるさと学」の講師を務める後藤素彦さん。熊谷の魅力と生き方を講義した(写真:埼玉純真短期大学)

## 学びはキャンパスの外に

「ふるさと学」は、地域にある教育力を「借りる」ための態度や術を身につけることが目標。藤田学長が将来向き合う保育を通した人間教育に必ず生かす」と藤田学長は力を込める。ふるさと学は、地域にある教育力を「借りる」ための態度や術を身につけることが目標。藤田学長が将来向き合う保育を通した人間教育に必ず生かす」と藤田学長は力を込める。



動画「打ち水ソローアッチイぞ[kumagaya!〜」(エコネットくまがやのYouTubeチャンネル)

# 感染落ち着いている今、先を見据えてすべきこと

コロナ禍肌を感ずる学び貫く 埼玉純真短期大学学長 藤田利久さん



お招きしています。オンラインでも知識は伝はります。が、教育はできないというのが持論です。肌を感ずる、ものに向かう、人がいるという感覚を身につけることが、大切な人々の心を育むことにつながると思います。

## ふるさとの魅力に気づき、「まねぶ」力を

総合環境衛生学ゴトーグループ社長 後藤素彦さん



から、ありがたい姿や理想の先生像を描いてほしいと思います。あの対談の後、埼玉ハナソニックワイルドナッツの各を冠した「サイクル&カフェ」をオンライン「電動アシスト自転車貸し出すシェアサイクル事業」も軌道乗りつつありますが、これらはビジネスでありながら、まちづくりの意味合いも色濃くあります。ラビやシェアサイクルの魅力を生かし、併せて地域社会の実現や健康づくりを推進するなどの、複数の課題を解決する可能性を持っています。

## 6th Season ポンコツ エコエッセイ 第31回

おかげさまでシーズン6!。正直、こんなに長くやらせていただけたとは思っていませんでした。ECOに関する環境や私たち自身の意識は、この連載エッセイがスタートした頃と比べたら随分と変わってきたと実感しております。これからも身近で等身大な記事を書いていけたらと思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。先日「フードロスを無くそう」をテーマにしたEVENTで、講師のようなことをやらせてもらいました。「大根1本を使い尽くす」がテーマで、葉や皮まで全部食べようという内容です。皮はきんぴらに、本体は簡単に作れるピクルスにしました。なんとなく捨てている野菜の皮や葉も、実は工夫次第で美味しく食べることが出来ます。今回は大根でしたが、ニンジン、ジャガイモ、ナス、きゅうりなんかは



【プロフィール】わたたくま 音楽アーティスト、東田出身、バンド Sweet Beat Swing (現のSweet Beat)としてメジャーデビュー。NTV系「THE夜更け」に「キョー」出演したほか、数々のCM音楽も手がける。現在、ラジオ番組「わたたくまのラジオ」にて活動の場を広げている。数々に埼玉新聞、本紙の広告大使、埼玉新聞環境キャンペーン「エコ員」広報大使。

私たちは think the SAITAMA 埼玉新聞環境キャンペーン

私たちに協賛していただきます

※協賛社を随時募集しています。 令和4年6月30日現在

Coca-Cola BOTTLED BY JAPAN INC.

SOMPO 損保ジャパン Innovation for Wellbeing

ひとのときを、想う。 JT 日本たばこ産業株式会社 埼玉支社

co-op コープみらい 食卓を笑顔に、地域を豊かに。

埼玉りそな銀行 RESONA

武蔵野銀行

RUN FOR TOMORROW 株式会社 シタラ興産

アイルグループ http://www.iil-group.co.jp

U・V株式会社

川口信用金庫

青木信用金庫

飯能信用金庫

STAR KOTSU 株式会社スター交通

埼玉県信用金庫